

よかところ通信

2015年4月号

O2Farm【オーツーフาร์ม】 大津耕太&愛梨
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 587
Tel&Fax : 0967-62-3730
E-mail: mail@o2farm.net
O2FarmWeb : www.o2farm.net

桜が咲いたというのに冷たい雨と風。なかなか本格的な「ぼかぼか陽気」が訪れない南阿蘇です。とは言え、農作業はすでに急ピッチで進み始めていますし、春の風物詩である「野焼き」の後にすすけて真っ黒になっていた野山は既に新芽が芽吹き始めています。



春と言えば、別れと出会いの季節。我が家で2年間の研修を受けたクンシ君が4月から独立しました。畑に比べて借りるのが難しいと言われている田んぼをまとめた面積で借りることができ、周囲の助けを借りながら自分のペースで田植えに向けた準備を進めている様子です。彼と入れ替わりで、研修を始めたのが「エースケ」こと山内英輔君。去年までニュージーランドで小水力発電の仕事をしていた彼は、私が主催した「エネルギー兼業農家のススメ」というセミナーに参加してくれたことがきっかけで、本当にエネルギー兼業農家を目指すことになったのです。まずは農作業を覚えながら、農業用の水路や河川で小水力発電ができないか、他の再生可能なエネルギーをつくることはできないかを探っていきたいとのこと。周囲の高齢化が激しく、「こっこの田んぼも作ってくれ」という申し出が来ているオーツーフาร์มにとって貴重な戦力です。



さてそんな戦力を得て、圃場整備工事のために一旦どかしていた育苗用のビニールハウスを再建中。種撒きまでに完成させたいのに雨天が多く、なかなか進まないのが悩ましいところです。それでも、電気工をしていたエースケが脚立や工具を使う仕事が得意なので、すごく能率的に作業ができています。春休み中は子供たちもせっせと支柱を運んだり、測量のお手伝いをしたり。家族総出で建設を急いでいるところです。

育苗ハウスの建設が終わるのを待たずに、種蒔きに向けた準備も始まっています。この季節は、田んぼの準備と苗の準備が重なるので、目まぐるしい日々です。種もみ（種として殻がついたまま保管しておいた去年のお米）は、「塩水選（えんすいせん）」と呼ばれる方法で選別。塩で比重を上げた水に種もみを浸し、浮いたもの、つまり中身が詰まっていないものを取り除きます。その後、よい種もみだけをネットに入れ、60度のお湯で10分間消毒。農薬を使わない「温湯消毒（おんとうしょうどく）」と言います。熱した種もみをすかさず冷水で5分間程まんべんなく冷やし、それを水に浸すと完了。約10日後には種もみが水をたっぷり含み、種蒔きの前日にぬるま湯につけておくと、小さな芽と根が生えてくるのです。あんなにカラカラに乾いていたのに…と生命の不思議を感じます。





田んぼの方の準備は、水路の草を切り、たまった泥を掻き出したり(左)、牛さんの「落とし物」から堆肥を作ったり(下)。O2Farmではあか牛を飼育して、お米を作っているのですが、これは阿蘇地域に古くから伝わる組み合わせで、牛はエサとして稲ワラを食べ、排泄物は堆肥にして田んぼに戻す、いわば「循環型農法」です。TPPで一番打撃が大きいと心配されているのが牛肉とお米。でも阿蘇の「農村風景」を構成している草原と水田を守っていくため、また、おいしく信頼のおけるお米や牛をお届けするため、たゆまぬ努力を続けていきたいと思っています。



ところで、「農家の未来」を切り開くため、私エリはこの度、会社を設立することになりました！「里山エナジー株式会社」という名称で、農家が食べ物もエネルギーもつくれる社会を目指す会社です。農家が収入を増やすために新しい作物をつくったり、規格外の農産物で加工品をつくったりする例はよくありますが、収入源を増やしたり安定させるために電気や熱をつくる、という事例は日本ではまだほとんどありません。私たちが留学していたドイツは、チェルノブイリ原発事故をきっかけに、国を挙げて再生可能なエネルギーの普及に取り組んできた国。家畜の糞尿や牧草を発酵させた時に出てくるガス（メタンガス、バイオガスとも言う）を使って発電し、電力会社に電気を売ることによって収入を得ることが珍しく無いものになっています。日本でも福島原発事故をきっかけにして法律や制度が変わって電気の買い取り価格が保障されたため、ドイツのような農家の姿も考えうる状況になってきたのですが、まだまだ農家にとって「電気を売る」という発想は理解しにくい様子。そこで、農村にどれくらい資源があって、どれくらい電気や熱をつくることができそうか、それによってどれくらい農家にメリットがありそうか、という調査や試算をするための会社をつくった、という訳です。実際に阿蘇で発電施設をつくるためにはいくつか乗り越えなければいけないハードルがあるので、まずはそこから始めたいと思います。私自身はエネルギーの専門家ではないので、一緒に起業した「助さん格さん」が主戦力となって事業に取り組んでいきます。でも「農家がエネルギーもつくる！」というシンボルとして、ご老公のポジションにおさまりたいと思います（笑）。



最期に家族のご報告。三男・讚太郎がめでたく入学いたしました。同い年の子の中では断トツの大きさなので、新入生の黄色い帽子がイマイチ似合わないのですが、本人は毎日楽しく登校しています。リトルファーマーが学校に取られるのは残念ですが、息子の成長はやはり嬉しいもの。全校生徒38人の小さな社会にすんなり溶け込んで楽しんでいる姿は、傍から見ていて微笑ましいです。来月はいよいよ田植え。GWはリトルファーマーズにも活躍してもらおうと思います。皆さまも楽しい大型連休をお過ごしください！